



この度、反復体外受精・胚移植不成功例、習慣流産例を対象とした着床前胚染色体異数性検査（PGT-A）臨床研究の実施設として、新たに承認を受けました。

受精卵の染色体数を調べ、異常が無いと判断された胚を移植することで流産率が減少する、または移植あたりの妊娠率が上昇すると言われています。

当院では、既に2007年より南九州で唯一の着床前診断（PGT-SR・M）実施設として認可され実施しており、高い技術と実績があります。

臨床遺伝専門医として当院長が常勤しておりますので、遺伝カウンセリングを含め、まずは一度ご相談・受診してください。詳しくはスタッフにお尋ねください。

